

第二百二話 援蔣ルート遮断とインド洋作戦の破綻：痛恨の極み！

日本は軍事的には蔣政権を追い詰めても、屈服能わず、政治的和平の機会も掴めず、百数十万の兵を大陸に貼り付けたままとであり、国力は疲弊していた。

頑強な蔣政権を支えたものは、英米仏ソ等の各国からの大量の援助であった。連合国からの援助の遮断を図ることは日本にとっての大陸での作戦にとって極めて重要であった。インド洋は、それら物資の輸送路であるばかりではなく、英本国への輸送路であり、在エジプト英軍への補給路でもあった。

1 援蔣ルートの概要

- (1) 仏印ルート（仏領印度支那から昆明、鉄道輸送）
- (2) 香港ルート（香港から鉄道や水運により大陸内陸部へ）
- (3) ソ連ルート（ソ連から蒙古経由）
- (4) ビルマルルート（新旧二本の陸路（ビルマ公路、レド公路）と空路）
ビルマ公路：ラングーン～（鉄道）～ラシオ～（トラック輸送）～昆明 1938 開通
レド公路：印アッサム州レド～（トラック輸送）～昆明 1945/1 開通

2 日本の援蔣ルート対策

日本の特務機関による独立或いは離反策（南機関、藤原機関、岩畔機関、光機関、ペナン機関、西原機関等々）の他

- (1) 香港ルート
1938 年 10 月、日本軍が広州を占領してルート遮断に成功した。
- (2) 仏印ルート
独に降伏(5月)した仏の後継政府ヴィシー政権との外交交渉により、北部仏印に第5師団が進駐(1940年9月)したことにより、遮断された。
- (3) ソ連ルート
日本としては打つ手がなかったが、1941年独ソ戦が開始されると、ソ連としては、蔣政権支援の余裕なく自然消滅の状態となった。
- (4) ビルマルルート
 - ・ビルマ公路：1942年日本軍のラングーン占領により爾後は空路に
 - ・レド公路：ビルマ公路の代替道路、1945/1/12 貫通爾後半年で約13万トン輸送

3 インド洋の価値をどう見るか？

ビルマルルートで送られる物資はベンガル湾のラングーンに陸揚げされ、ビルマルルートの早期遮断が日本にとっては必須であり、インド洋を制することによりこれら物資の輸送を阻止し、且つインド等から英本国への輸送の阻止、エジプトの英軍への補給阻止も期待できる。これらのことを総合的に勘案して、日本は連合軍の弱点はインド洋にありと判断してインド洋作戦を実施しようとしたのである。

4 インド洋作戦の顛末

セイロン沖海戦(1942/4/5～9)やベンガル湾での海上交通路破壊等で相応の戦果は得たが、戦果を拡充しなかった。チャーチルはルーズベルトに、「援蔣ルート、ペルシャ湾経由の石油輸送ルート、ソ連支援ルート」が遮断されると悲鳴を上げたが、我が海軍はこの機に乗じることなく長蛇を逸し、海軍第二段作戦のため、南雲機動部隊を呼び戻し、主力を太平洋正面に転用した。その揚げ句にMI作戦で大惨敗を喫し、日本の当初の戦争指導の目論見は敢え無く破綻してしまった。

7月上旬、軍令部は、FS作戦の中止とインド洋作戦を計画したものの、ガ島に海軍は進出して、結果的に此度のインド洋作戦は中止された。

* GFの独善が招いた当初構想の破綻。残念だ。